

日四廿月三



定価 一部全紙一ヶ月五拾五銭 郵費五銭
廣告料 五、〇〇〇 字一、〇〇〇 行一、〇〇〇 拾
日曜、祭日、休刊
発行所 常盤寺日新聞社
印刷所 常盤寺日新聞社

慈悲とは何ぞや

眞繼 雲山

悟りとはまことのすがたを見ることである、因果の道理を知る、三寶の性相のひとしきを知る人法の皆空なるを知るなどその外いろ／＼あらう、それを知り得ねば信ぜよであるが知り得ぬほどの鈍根のものが何として信じ得やう筈がないよし信用してみても又疑ひの起る時がある、疑へば折角の信心も臺なしとなる、信心とはそのやうな薄弱なことを申したのよはない、然らば入信とは何か入信とは如來の私たちに對する慈悲を知らせて頂くことである。

佛様はもと／＼私たちに絶対無限のお慈悲をめぐみ下されてある、その事實を知ればよい、これから改めてお慈悲を頂くといふ話ならそれは殆んど不可能に近い大事業であるも、知らせて頂くといふことなら一念にして即時に得られる、それを知らせて下さるのが如來の廻向でありその大法の廻向を受けて私たちが満たされるつまり佛の慈悲に生き得るのである、如來の慈悲とは何か佛様からの下さるもののである、その下さる物とは私たちが本統に永遠

に生かさうとして下さる本願の力である、五十年で死ぬ管の肉身が永遠に生きるとは何ういふことか、それは無量壽無量光の如來の命を頂くのである

如來と同じ眞實の悟りを開かせて頂くことでこれを如來の大覺に入るといふてもよい、その大覺に入らせたといふのが如來の本願その御本願を知るが入信である

ノート

米は暖氣と濕氣とを嫌ふから電近くや濕氣の強い所に置くと脂肪が減り滋養分も少くなる

り、その本願に既に攝取されてあることを知るのが救済の成立である、親に死なれ妻子に先立たれた家が焼かれ水にさらはれるといふのは如何にもむごたらしい事實である、無信の人々はその災厄に當面して悲泣し憤怒する、しかし悲泣と憤怒は解決の道ではなくして行詰まりであるや、初信の人たちはその不幸な事實に當面してそれが佛の善巧方便であるとし自ら慰める、しかし佛が慈悲のかたまりならそのやうな不幸や災厄を假りにも下さる筈がない、地震や火事や津浪や病

死といふが如き様々の出来事はもと／＼佛様の死られた話でなく従つて如來の創作でもなく廻施でもない、然らばさうした不幸や災厄は全体何かといふにそれは業の展開である、獨り災厄不幸の然るばかりでなくこの世の出来事一切は皆んなその業報に流轉する私たちの苦しみを見て佛様はつねに大悲のお胸を痛めておて下さるのだ何として災厄不幸の震源地であるものか。

善巧方便とはその災厄を縁として順逆を縁として私たちが啓導し開發して下さるお計らひをいふのであつて若し災厄に當面しそれによつて人生の無常を知り永生の佛土を見ることが出来たらば、それがお慈悲を知らせて頂いた時すなはち如

明日の献立

- 【朝】ふくめ煮—切乾大根 青板ごぶ
 - 【晝】雑多煮—豚肉 玉ねぎ じゃが芋 豆腐 しやう油仕立 落し みそ
 - 【晩】にしめ—こんにやく 亂切ごぼう
- 來の本願に攝取された時である。斯く申す私も家は二度ま

でも焼かれ事業は幾たびも顛覆した至らぬ凡夫の淺慮からこれが如來のお慈悲かと匙を振り舞はしかけた時もありはしたが結局それは佛様と関係のない宿業の展開であること知つた、佛説祖教のお蔭によつて一切皆空の道理を知らせていたゞき仍りて以て業報から抜け出て永生の彼岸を見ることによつて自らの分相應の解脱を得た、それが私の入信の事であつたとして、それは踊りたいやうな喜ばしさではなく人間の悲喜と苦樂を超えた寂靜のよろこばしさである、樂しさが無くなつて喜ばしさが消えるといふ相對の苦樂を超えた眞固の喜びを得たときそれは寂滅爲樂の體得といふて不可ないと思ふ。

雛人形道具一式

特價大賣出し

古代並に現代人形 特作品品豊富陳列 御客様本位 大勉強是非御來覽御用命を

平町四丁目 スガノヤ提灯店 電話九五番

雛人形雛道具

特價賣出し

久月特製おぼこ人形や古代風人形類を陳列致しました。どうぞ御一覽下さい 御待して居ります。

平三丁目 金太郎玩具店

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番) 大和田醫院

おひな人形陳列會

東京、埼玉各地一流人形師の作品を賑々しく陳列致しました。是非一度御覽下さい。

優秀品で値の安い

フクダヤ際物部

新學期の裁縫用具は

ハシモトヤへ!

女學生用カバン 澤山入荷しました。

田町 ハシモトヤ糸店 電話十四番

(少年店員募集)

江戸前料理 合巻

見習さん大至急募集

十五歳より二十歳迄

錦水 電話四五四番

耳鼻咽喉科専門

平町田町七〇番地 山内醫院 醫學士 山内亨吉 電話六九一

平各小學校優等受賞者

平第一校

▽尋常科第一學年(第一組) 根本孝三郎 川崎次男 草野昌平 松本一男 青沼康裕 鳥海玄三 豊口秀哉 渡邊重廣 佐藤善一 玉木英雄 藤田五郎(第二組) 廣木豊 柴田秀雄 神山昌也 藤田彌輔 鈴木一男 菅野孝道 山崎七郎 伊關次郎 水野隆 關内正雄 尾形榮一(第三組) 青木信夫 柏木洋二 若松英信 山崎盛久 酒井啓隆 藤居喜一郎 田中輝郎 菅野光洋 松崎貞夫 鈴木徳次郎 石和田利夫(第四組) 吉田利雄 石田吉男 樋口博尚 伊藤成男 牧野聰一郎 菊地一郎 星大目英一 高野秀三郎

▽尋常科第一學年(第二組) 小野晃平 酒井健 清水俊政 吉田敬治 中澤幹太郎 片寄武夫 馬目欣之助 柴田春雄 中島恒(第二組) 鈴木滿男 藤田文朗 横山榮一 内村茂 小園井邦男 大谷繁雄 水野敏夫 龜岡光弘(第三組) 岡田孝平 橋本壽 鍋田三省 渡邊義國 村田賢徳 唯野信 鈴木甲一 牧野好夫 田村尚顯 原雄一(第四組) 石川榮一 松本英一 大平泰明 大塚憲 薄葉忠久 豊田聰明 小野榮三 野口一男 武田邦彦

▽尋常科第一學年(第三組) 鈴木木 善彌 三井真一 遠藤好一 齊藤修三 坂内亨 櫻井博 飛田常重 木下藤三 飯沼賢一 永山剛一(第二組) 正木秀夫 渡邊弘道 山崎常三郎 若松壽彦 鈴木重雄 新妻幸男 關新

▽尋常科第一學年(第一組) 中川圭二 小山田俊夫(第三組) 龜山正邦 飯島登司 小松崎富夫 新妻唯男 會澤三郎 永野節 小谷由男 諸橋英二 半谷英二 根本幸一郎 第四學年(第一組) 佐々木高滋 清水重政 伊藤康夫 高野秀雄 菅本進馬目智夫 宮本武雄 市毛美徳(第二組) 千葉直彦 杉本光男 半谷正文 安藤破魔夫 吉田博 水野武雄 馬目順 坂本秀雄(第三組) 小野勝三 木田菊壽 島正 永山恭平 青木肇遠 藤正 芝田政善 菊地宗俊(第四組) 高階文三 小林靖 小川芳勝 大津賀淺吉 大野光男 鈴木將夫 福田節 市川勝次 小原健次郎 第五學年(第一組) 坂本行藏 小坂隆通 酒井洪新妻常雄 藁谷公義 國井好治 關内弘吉 大野泰志 吉田光弘 星野剛(第二組) 柴田讓 安齊憲二 新井保知 山崎福次郎 政井喜八郎 堀英一 宇佐美甚一 小鐵治弘文 増井弘次 内藏晃(第三組) 安齊光男 伊關大郎 關原定之 佐川清 袖山勝伯 塚本正光 龜田憲太郎 上坂常磐 蛭田光一 鈴木將夫 橋本喜彦

▽尋常科第一學年(第一組) 志賀純一 長瀬泰輔 中野義廣 石黒武雄 片寄藤次 志賀正義 鈴木康男 大森昌一 吉田浩 鈴木省吾 高橋文三(第二組) 根本忠雄 内村忠雄 岩崎本忠雄 中川信一 星野喜四郎 萩原茂人 吉江忠徳 酒井英安 吉田伴四郎 早川忠夫 白土良平(第三組) 名尾卓朗 山崎道雄 河野和平 小林正久 大間順三 岡部恒雄 小松公平 片寄博

平第二校

▽尋常科第一學年(第一組) 田卷隆子 坂内紀子 高木良子 菅明子 馬山アキ 黒木ヤエ子 會田美智子 根本房子 西野秀子(第二組) 菅野榮子 淺野瑛子 飯沼静子 増井フミ子 河野静 長谷川ヤス 野崎貞子 長谷川みつ子 高橋明子(第三組) 中野静子 櫻庭滋子 中根満子 小齊峰子 櫛田淑子 鯨岡美喜 大久保善子 堀久榮子 村上まさ(第四組) 正木田鶴子 木村イミ 酒井正子 吉成照子 太田二三子 吉田輝代 麻植昌子 鈴木静 渡邊ヒツ子 黒木悦子 大和田キヨ子 三井敬子 蛭田悦子 五十嵐

▽尋常科第一學年(第一組) 澄子 永島悦子(第二組) 柴田難苦子 矢田部富子 鈴木蘭子 梅森道子 馬目輝子 廣田ユキ 鈴木美枝子 佐々順子(第三組) 長瀬多美 遠藤睦子 高野喜江子 佐川行 青木美代子 高橋正子(第四組) 佐藤ミチ 小岩玲子 友部宮子 石川サエ子 白土アイ子 小川トヨ子 東條正子 綠川比奈子 第三學年(第一組) 梅津吉子 關原芳枝 五十嵐シノブ 叶多公子 木村アノ子 金子トミ子 關内イ子 今井久子 横山タカ子(第二組) 馬目静木田カ子(第三組) 松本多美 關内満壽子 高橋ミサ 三浦榮子 高橋キミ子 大和田千代子(第四組) 原つね 酒井良子 阿部英 佐々木アイ 天好フミ 大谷ツネ 三瓶吉江(第四組) 村山佳子 野田貞子 櫻庭美代子 野敬子 鯨岡久 中村照坂田多摩子 山名惠美子 田代喜美

▽尋常科第一學年(第一組) 根本ツネ子 鳥海珠 飯塚さと子 小園井端美 桑田隆子 橋本喜代子 樋口道子 三上とし(第二組) 梶原フミ 關内義子 高木光緒子 杉山ツキ 齊藤光緒子 長瀬喜美 高木光瀨尾美佐子(第三組) 小野滋子 多賀子 廣澤トキ子 成久子 大和田順子 川フミ子 鈴木とみ 木スミ子 神山恭子 上英子 橋本フミ 第五學年(第一組) 小野光緒子 吉田愛子 近藤シヅ子 鍋島ハツ子 中島多美 廣邊昌子 和田多美(第二組) 石山小夜子 桐谷悦子 佐々木繁子 松崎二子 大和田智恵子 横山中村

▽尋常科第一學年(第一組) エ子 藤沼里子 川又ヨシ 青山佳子(第三組) 正木千鶴子 中野弘子 菅野文子 小野淺子 江尻ミヤ子 石川秀 栗田ケ子 高階翠 村上富子 第六學年(第一組) 熊トリ子 飯島しげ 佐藤繁子 會田初子 櫻庭美津 本間トヨ子 阿部弘子 鈴木ヨシエ 金濱幸江 飯塚フ(第二組) 阿部トシ子 氏田ハツ 大塚アサ 根本廣子 高橋敏子 阿部智恵子 伊藤ハルヨ 小林俊子 森久子 馬目富代(第三組) 松本節恵 上村カク子 芹澤節子 木村カク子 久保ホヨネ 新妻セイ 長谷川好江 小野文子 兼田ヨシ子 佐藤富貴子

▽尋常科第一學年(第一組) 山崎ヒロ 荒川ハナ子 渡邊泰子 難波ツネ子 石川清子 堀江光子 海和 福田アサ子(第二組) 橋トヨ 島田延子 小林三浩 鶴沼芳子 大原道子 廣邊益子 増尾千代子 富田貞子 尾木フミ子(第三組) 鈴木芳子 木田ミツル 菊地雪子 大塚ツネ 佐々木ユキ 伊達清 佐藤光子 矢島芳賀ミサ子

▽尋常科第一學年(第一組) 三森孝子 佐藤方子 鈴木博士 新家武芳 高羽博得 諸橋英祐 岡田三男 鈴木彌生(第二組) 布施敏子 吉田良次 梅津文子 永島高伯 原田美枝 國分喜代明 橋喜久治 谷川壽美恵(第三組) 鈴木健三 江尻光男 鈴木真志子 吉田英雄 瀧口友人 鈴木秀直 西郡京子 吉田孝子

▽尋常科第一學年(第一組) 橋本克己 木村康 阿部愛子 根本八重子 野本輝子 今田美代 松崎佐二郎(第二組) 田中富美子 安齊太郎 菊地堯男 野澤芳男 志賀篤 新井静江 加美山郷子 佐藤哲夫 青木藤枝(第三組) 竹本弘 澄川欣司 白土義男 橋本孫四郎 大橋義三子 飯澤キヨ子 橋咲芳賀ミサ子

▽尋常科第一學年(第一組) 吉田眞一 井上明 牛澤芳男 猪狩侯夫 齊藤市太郎 藤田信藏 鈴木剛二 鈴木高光 本阿彌孝治 小松伸太 佐藤喜代 永島佳子 高萩芳子 江尻朝子 志賀綾子 鈴木文子 鳴原田鶴子(第二組) 井美津子 加藤春子(第三組) 竹村彌美 瀧口勝久 多田井巖雄 吉田義男 渡邊辰夫 金成柱一 志賀啓佑 上野忠信 白土貞子 林淑子 張文子 川崎初子 白土ノブ子 小菅正子 鈴木千代子

平第三校

▽尋常科第一學年(第一組) 齊藤重雄 白土弘 平野井正治 遠藤吉雄 難波一郎 影山忠英 鷺甚一 山野邊芳郎 國井武之 橋ソミ 白土美子 阿部ミチ 林セツ子 金成俊子 鈴木ひで子 小菅イノ 柴田美津 今田操 荒木トキ 寺門トシ子 石城教育部會受賞者

▽尋常科第一學年(第一組) 高橋晃平 影山忠英 林眞男 荒川カク子 北島ミサヲ 柴田美津

▽尋常科第一學年(第一組) 新妻ハル 玉木勝子(第五學年) 諸橋富彌 野井珪造 植村力夫 荒四郎 鈴木勇次郎 永島利弘 植藤進 松崎尚武 石川四郎 井上和子 高子トシ 丹野千鶴 高田秋子 鈴木ミツ 澄川ケイ子 高萩秀 岡田幸子 水庭ユキ 鈴木省子 藤チイ 青木榮太郎(第六學年) 田中榮太郎 齊藤重雄 白土弘 平野井正治 遠藤吉雄 難波一郎 影山忠英 鷺甚一 山野邊芳郎 國井武之 橋ソミ 白土美子 阿部ミチ 林セツ子 金成俊子 鈴木ひで子 小菅イノ 柴田美津 今田操 荒木トキ 寺門トシ子 石城教育部會受賞者

美味! 芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

新妻ハル 玉木勝子(第五學年) 諸橋富彌 野井珪造 植村力夫 荒四郎 鈴木勇次郎 永島利弘 植藤進 松崎尚武 石川四郎 井上和子 高子トシ 丹野千鶴 高田秋子 鈴木ミツ 澄川ケイ子 高萩秀 岡田幸子 水庭ユキ 鈴木省子 藤チイ 青木榮太郎(第六學年) 田中榮太郎 齊藤重雄 白土弘 平野井正治 遠藤吉雄 難波一郎 影山忠英 鷺甚一 山野邊芳郎 國井武之 橋ソミ 白土美子 阿部ミチ 林セツ子 金成俊子 鈴木ひで子 小菅イノ 柴田美津 今田操 荒木トキ 寺門トシ子 石城教育部會受賞者

平細菌検査所 實驗室を新築

縣に對して交渉中

平細菌検査所ではモルモット及びワツセルマンの傳染病細菌の實驗研究室が不完全な爲め近く町内適當の地を選定し新築すべく縣に對し豫算其他を交渉中であるが糸川技師は左の如く語る

「傳染病に就いての完全な實驗室は今迄幾度か其の必要を感じて居たが地元の寄附も集めねばならぬので現在では中々實現する事は難かしいと思ひます然し縣の決心如何に依つて近く何とか具体化するでせう」

相變らず 入學難

平商志願 本日締切

平商業學校に於ける本年度入學志願者の受付は本日限り締切つたが志願者百七十八名で昨年よりは七名の減少であるが募集人員は百十名であるから相變らず入學難を現出して居る

平各校再修生

各小學校にては本日午前九時

農民の血涙史

(4)

往時を想起

鯨川堰を踏査し
株式募集の張り札が村人の眼を引き付けると共に、此の邊りには見馴れぬ
洋服着の 男が靴を抱へて、幾人ともなく村から村へ、バツタの様に飛び廻つた、株式募集の勧誘員――

平商編入試験

平商業學校第二學年の編入試験は来る二十七日午前九時より執行されるが志願者は七名で募集人員は二名である

理髮業大會

四倉海氣館に

濱三郡理髮業者大會は來月上旬四倉町海氣館に於いて開會役員の改選及び優良會員の表彰を行ふと

女工の中から

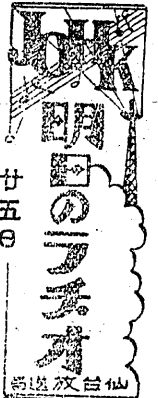
酌婦志願を 抜き出すとて

周旋屋を擔ぐ

既報本月十日石城郡内郷村字綴カフエー業者石黒鐵男方に女給を周旋すると稱し前借十一圓を騙取して平署に檢舉された好問村大字北好問字五反田二二生れ詐欺窃盗前科四犯根本梅治(三三)の餘罪は平署で嚴重取調中

何處かに

金穴はないかと虎視眈々たる時である疏水を復活する鯨川水力の發電計劃なる金儲け談は郡下一圓にとどまらず、全縣下を捲席して遠く會津の山の中からも株式募集の申込みが相次ぐ豪勢さであつたといふお蔭で植田の花柳界は、取らぬ狸の皮算用をする人々に依つて



明日の部

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
兒童劇「千人針」熊本鹿本郡菱形小學校兒童
後七、三〇 講演「如何にして性格を診断するか」文學博士久保良英
後八、〇〇 ビアノと管絃

明日の部

後九、三〇 時報 全國ニユース 氣象通報 番組
後五、三五 少年少女職業指導講座「就職及就職後の注意」仲井眞一郎
後六、〇〇 子供の時間 物語「黄色い傘」小川紅二郎
後七、三〇 講演「電氣デ」に際して「逓信大臣南弘
後八、〇〇 ラヂオ歌舞伎「初ざくら」吉典座
後八、五〇 浪花節浪花亭愛造

神職總會

祭式講習開催
石城神職會支部總會は廿二日午後一時から扇屋旅館に開會八年度豫算を議決し八月中祭式講習會を開く事に決定尚支部長改選の結果吉田定正氏が當選した

米穀生産費

調査擔當者
石城郡草野村字北神谷永井忠太郎氏は縣の八年度米穀生産費調査擔當者として決定せる旨本日郡農會に通牒があつた

出荷組合

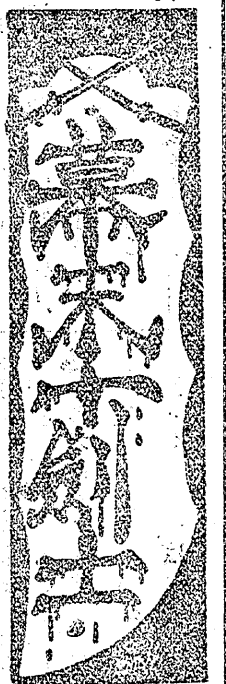
春蘭の準備
石城養蠶實行組合では春蘭市場に於ける各養蠶家の大量出荷を計畫し農家の實行組合結成を奨励しつある結果最近小川村の關場組合及び大浦村狐塚川田組合泊村井出組合等何れも設立の

市原醫院

平町 田町
電話一四四番
れ日下住居不定前科二犯水野利行(三)が去月十五日頃大字高萩柳田村次郎其他價格二百餘圓を窃取したる事件は本日午前九時より平區裁判所に於て竹内判事係り小林檢察官の下に公判開廷され事實訊問の上拘留されたが第二回公判は来る三十日午前九時である

平裁判たより

石城郡川前村大字下桶賣字志田名四番地雜貨商大貫仁平(五)は去る一月二日無



【禁演上演及映畫】

悟道 軒圓玉演
近藤 紫雲書
佐々木 見山

第二百九十八席

采女克己を訪ふ
久太は小さんの住居に松崎采女に渡邊金彌を案内した

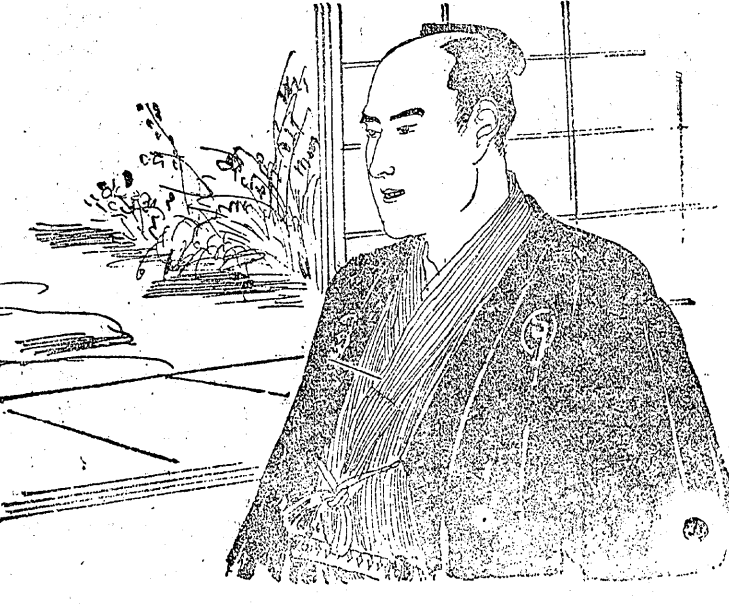
久「御免なさい、お頼み申します」
女「ハイ、誰方でございます」
出て来たは十八九になる

女中

女「久太さんではないか、オヤ、お客様を伴れて来たの」
久「この旦那が山本様にお目にかゝりたいと云ひなさるからお伴れ申した、尤も太夫さんからの傳言でもございませう」
女「オヤさう、少々お待ち下さいませし」

奥に入つて再び出て来て此方へお通り下さいませと案内したは七疊の座敷、之は書院造りで床には唐畫の山水の軸がかゝつてゐる。カピカ光り輝く九谷の花瓶に山吹が投込んである、庭は十坪ばかりそれには雑然と樹木が植てある女中が、お茶と煙草盆を持つて来たし、ばらとするとエヘンと咳を前ぶれに廊下からこれへ入つて来たは年頃三十一、二になる青髯の生えた少し凄

つた」
松「手前事は有馬玄蕃頭家來松崎采女、渡邊金彌と申す者でござる」
山「ハハア左様か、有馬様の御家來か、それがどういふ用事があつて見えられたか」
松「誠に恥入つたことございませう、先達て飛鳥山に花見に参つたる節酒に飲べ酔ひまして乗馬二頭を小きんどの小兼どのに與へましてございませう」
山「あの時のお武家はあなた方か、二人は馬に乗つて戻つて参り、お酒の相手をしたその禮としてこの馬を



味はあるが好い男藍萬筋の上田紬の袷に袖に茶博多の帯をしめ、黒紬紋付の羽織徐に其れへ坐して願と顔で二人をデロリと見た大低物を見るは目ですが、中には額でみるものもある三百眼と云つて額で人を見上げる

時の目は三方白く、黒目は上へくつついてしまふ、これを變死の相といふ、有難いものではない
男「これは、能うこそお出で下された、拙者は山本克己と申す者であるどういふ御用があつてお出でにな

ましたが此事が發覺いたしますと我々は重きお咎めを受けるでございませう何卒此邊お察し下されあの乗馬をお戻し下さらば有難いとにございませう」
山「成る程、あれは殿様の御乗馬か、それはあなた方もお困りなされるであらうお戻し申したくは存するが折角仕込んで曲をいたすにも差支ぬほどにもなつたものをお戻し申すは誠に困るそれに二頭とも逸物である向後あのやうな馬を求めるとはなりません、さういふ次第ゆるお氣の毒であるが、お返し申すことはならぬ」
松「左様でもございませうが、我々の境遇をお察し下されて枉げて此事御承知下さる様、偏にお願ひ仕ります」
山「それは困つたナ、それでは斯う致すであらう、金を貰つてあの馬を引渡すことにいたさう、つまり馬と金と替るその金にて又馬を求めぬ事にいたす」
松「シテ何程差出してよろしうございませうか」
山「左様サ、千兩とも申す處であるが五百兩お持ち下さう」
松「エツ、五百金」
二人はびつくりして顔を見合した、山本克己はアハ、と笑ひ
山「五百兩では安いではないか、此事が主人に知れたらば腹を切らせられるであらう、五百兩で二人の命が助かれれば易いことだ、ど

うだナ、五百兩出せぬか」
松「我々の身分では五百兩は大金に御座います」
山「出せぬことはあるまい有馬家には水天宮を祀り諸人の參詣を許し朔日、十五日には莫大の賽銭が上るとの事、その賽銭を持つて来たならば五百兩あるだらう」
松「これは怪しからん事どうぞ格別の取計らひを以て御引渡し下さる様」
山「それではかういたさう各々方の腕前を見て優れた技があらば馬を戻し申す事にいたす」
と云はれて二人は山本克己の顔を熟と見た。

一册の代金で御希望通りな五册の雜誌が自由に讀める
川崎巡 回文庫 電六三〇番
申込次第(規則書進呈)

御贈 答品
産名城警
鯉節賞
魚問屋
最優最 大賀日 本盛電 命盛電 代理三 店榮番

中村齒科醫院
平町鍛冶町七

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

生徒募集
一、卒業年限 兩科通ジテ一ケ年
一、入學資格 高等小學卒業又ハ同等ノ學力アル者へ無試験入學ヲ許ス
一、申込期日 四月八日迄
平町一丁目
石城 産婆學校
校長 鷹崎 千代
電話三五七番